様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：７２６８１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２０５０

研究課題名（和文）インド・チベット密教と曼荼羅の研究

研究課題名（英文）Study on Indo-Tibetan Buddhism and the Mandala

研究代表者
田中　公明（TANAKA, Kimiaki）

公益財団法人中村元東方研究所・その他部局等・専任研究員

研究者番号：００１７１７４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：当初計画していた(1)曼荼羅と密教美術の現地調査に関しては、2015年に中国青海省ラジャ寺、2017年に同省シャキュン寺の調査を行い、新たな知見を得た。この他、インド・ネパールでも調査と写真撮影を行った。(2)チベット・ネパール仏教美術の研究では、成都市のテンパタルギェー氏のコレクションからミトラ百種曼荼羅集の断片を発見、2017年2月からは東京国立博物館の客員研究員を委嘱され、館蔵品の整理を行ったが、その過程で重要な発見があった。(3)研究成果の公開と海外に向けた発信では、『安立次第論』と『梵文普賢成就法註』の日英二カ国語の研究書を刊行し、藤田アーカイブスも、ほぼ全写真の整理を完了した。

研究成果の概要（英文）：Regarding the mandala and esoteric Buddhist art, I visited Raja monastery and Bya khyung monastery in 2015 and 2017 and examined the sand-mandala creation. Concerning Tibetan Buddhist iconography, I identified fragment of Mitrayogin's 108 mandalas from the collection of Dargye Himalayan Museum in Chengdu. Moreover, from the Tokyo National Museum, where I am working as a visiting research fellow, I made several discoveries. I published Japanese-English biligual monograph on Sanskrit manuscript of the Samajasadhanavyavastholi and the Samantabhadra nama sadhana-tika. I also completed the imade database of Buddhist art photographed by the late Fujita Hiroki in India, Pakistan, Nepal and Tibet.

研究分野：インド学・仏教学

キーワード：曼荼羅　インド密教　サンスクリット写本　チベット仏教美術

１．研究開始当初の背景

日本における密教図像の研究は、平安時代初頭の両界曼荼羅の伝来より、すでに 1200 年の歴史を有している。とくに平安中期から鎌倉初期にかけては、事相・図像の研究が高揚し、密教図像について多数の文献が撰述された。明治維新以後、西洋の科学的研究方法を取り入れて批判的な仏教研究が始まったが、秘密裏に伝えられていた密教図像の研究は、なかなか近代化しなかった。しかし 1960 年代から 70 年代にかけて優れた密教図像の研究が陸続として発表され、わが国に伝来した図像の研究については、大きな峠を越えたといってよい。これに対して欧米では 1959 年のチベット動乱以後、海外に逃れたチベット仏教指導者による布教活動により、チベット仏教が社会において一定の地歩を確立しはじめた。それにともない 8～9 世紀以後のインド密教に由来するチベット密教の研究がブームを迎え、欧米では現在でも、チベットに関する大学講座や研究機関の新設があいついでいる。ところがわが国では、近年の若年人口の減少にともない、いままで仏教研究を担ってきた仏教系大学や国立大学で、仏教学の講座の縮小廃止が頻発している。仏教美術研究のもう一方の担い手であった美術史学でも、国立博物館・文化財研究所等の独立行政法人化により、かつてのように学芸員・研究員が基礎研究に専念することが困難になっている。

前述のように、日本の仏教図像研究は世界の最高水準にあるが、残念ながらほとんどの著作・論文が日本語で出版されているため、中国・韓国など漢字文化圏の研究者に、その水準が評価されることはあっても、欧米にその成果が知られる機会がきわめて少なかった。とくにチベット・ネパール仏教に関しては、わが国には河口慧海・多田等観以来の伝統があるにもかかわらず、近年の仏教学講座削減の直撃により、大学・研究機関から常勤のポストが完全消滅するおそれさえある。そのため海外の研究者の間では、当該分野における日本の研究成果を過小評価あるいは無視する傾向があり、それを改めさせるためには、国内の研究成果を、文法的にも正確な英語の著書あるいは論文として海外に発信していく必要がある。

２．研究の目的

曼荼羅をはじめとする密教図像の研究には、文献と作例の比較による図像学(アイコノグラフィー)、各部分の数学的比率を考察する聖像度量法(アイコノメトリー)、そして作品の様式的変遷から制作年代や地域を割り出す美術史的なアプローチがある。このうちチベット・ネパール系曼荼羅の図像は、研究代表者をはじめとする従来の研究により、かなりの点が解明されている。これに対して曼荼羅の度量法には、森雅秀氏の『ヴァジュラーヴァリー』(11 世紀)に基づく研究、研究代表者の『二十儀軌』(8 世紀後半～9 世紀初頭)による研究があるが、日本密教の源流となった７世紀から８世紀の曼荼羅の度量法については、いくつかの断片的情報しか得られていない。日本ではインド以来の土壇曼荼羅制作の伝統が失われてしまったからである。これに対してチベット仏教には、現在もなお砂曼荼羅制作の伝統が存続し、1985 年から清風学園が、インドに亡命中のギューメー密教学堂の砂曼荼羅の調査を行った。しかしこれらはインドで９世紀以後発展した後期密教の砂曼荼羅であり、日本密教の源流をなす金剛界・胎蔵の砂曼荼羅の研究は、手がつけられていなかった。これに対して 2014 年の予備調査によって、青海省の拉加寺では、金剛界・胎蔵の砂曼荼羅が毎年制作されているだけでなく、胎蔵曼荼羅の制作で参照されている度量法のテキスト(チベット語)も入手することができた。そこでこれらの資料に基づき、胎蔵曼荼羅の度量法を解明することを目的としたい。

いっぽうインドにおける密教美術の図像同定は、作品の文献的典拠を知ることで、制作年代や流派的帰属が明らかになるだけでなく、逆に作品が基づく文献の成立地域や流布事情が解明されるという一挙両得の効果がある。さらに石刻碑文や、チベット所伝のインド仏教史などの資料を併用することで、謎に包まれていたインド密教史の再構成が可能になると期待される。

曼荼羅に関係するサンスクリット密教文献としては、複数の学会誌に連載してきたインド密教写本のローマ字化テキスト整定と刊行を目標とした。

いっぽう研究代表者は、チベット関係の豪華写真集の監修や解説の寄稿を委嘱されることも多い。現在は撮影が禁止されている寺も、文化大革命直後には撮影できたところがあり、貴重な資料となっている。これらの写真を整理しデータベース化することを計画した。

３．研究の方法

上記の目的を達成するため、インド・ネパール・東南アジア・チベット各地の調査を行ったが、チベット自治区に関しては、2008 年の大暴動発生以来、外国人研究者の調査が制限されているため、中国内地に編入されている青海省・四川省・雲南省・東北地方(旧満州)のチベット仏教圏の調査に止まった。

４．研究成果

チベットの胎蔵曼荼羅調査の成果は、学会発表 2.3.田中論文 8.10.11.において詳細に報告した。サンスクリット語密教文献に関しては、日英二カ国語のモノグラフとして、田中図書 4.と 5.を刊行した。前回の助成(平成 23～25 年度)期間中に着手した田中の博士論文の英語版は、米国の Wisdom 社から 2018 年 12 月の刊行が決定した。さらに前回の助成期

間中に行ったムスタン調査の成果は、田中論文 13.にまとめられた。いっぽう写真家の故藤田弘基氏がインド・パキスタン・ネパール・ブータン・チベットで撮影した仏教美術の大判スライド写真を図像データベース化する「藤田アーカイブス」は、研究代表者が副会長を務める「チベット文化研究会報」に連載を続けており、2019 年には完成する予定である。

なお図書・論文等で、科研費の研究成果の一部であることを付記したものには●を付した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

1.Kimiaki TANAKA"Kumarajiva and the sandalwood image" (*Kumarajiva, Philosopher and Seer*, Indira Gandhi National Centre for the Arts 2015, pp.46-53)

2.田中公明「「インドの仏」展に出品された『八千頌般若経』装飾写本について」『東洋文化研究所紀要』169冊(平成28年3月, pp.117-130)●

3.田中公明「金剛手の図像的展開―『理趣経』「大楽の法門」の重説を中心にして―」『密教文化』236 号(平成 28 年 3 月,pp.248-235)●

4.田中公明「ガンダーラから極楽浄土図？―古代オリエント博物館寄託の仏説法図について―」『古代オリエント博物館紀要』XXXV(平成 28 年 6 月,pp.101-118)●

5.田中公明「チベット―密教の相承と曼荼羅および密教美術を中心に―」『空海と中期密教』春秋社(平成28年9月,pp.91-108)

6.田中公明「胎蔵曼荼羅―現図曼荼羅・『秘蔵記』・『摂無礙経』・三輪身説の成立問題について―」『空海と中期密教』春秋社(平成 28 年 9 月,pp.211-234)

7.田中公明「オリッサ発現の曼荼羅的構造をもったチュンダー（准提）像について」『東洋文化研究所紀要』170 冊(平成 28 年 12 月, pp.399-410)●

8.田中公明「胎蔵曼荼羅の度量法と諸尊の配置について」『密教図像』第 35 号(平成 28 年 12 月, pp.80-90)

9.田中公明【特別講演】「日本におけるチベット密教研究の意義と可能性」『密教文化』237 号(平成 28 年 12 月,pp.1-40)

10.田中公明「シャキュン(夏瓊)寺現覚院の胎蔵曼荼羅について」『高野山大学大学院紀要』第 16 号(平成 29 年 2 月, pp.1-12)●

11.田中公明[報告]「アムドにおける砂曼荼羅制作の現状―ラジャ寺とシャキュン寺を中心に―」『東方』第 32 号(平成 29 年 3 月, pp.111-122)●

12.田中公明「アームナーヤ・マンジャリーの新資料」『東洋文化研究所紀要』172 冊(平成 29 年 12 月, pp.75-86)●

13.田中公明「ローマンタン・チャンパラカン二階の曼荼羅壁画について」『アジア仏教美術論集 中央アジアⅡ(チベット)』中央公論美術出版(平成 30 年 1 月, pp.31-60)

〔学会発表〕（計７件）何れも田中公明

1. The Tradition of the Garbha-mandala (胎蔵曼荼羅) in Tibet and Its Sand Mandala Creation(第 6 届西蔵考古与藝術国際学術討論会) 2015 年 10 月 18 日

2.「アムドにおける砂曼荼羅制作の現状」(日本西蔵学会) 平成 27 年 11 月 15 日

3.「胎蔵曼荼羅の度量法と諸尊の配置について」(密教図像学会) 平成 27 年 12 月 5 日

4. 「ガンダーラから極楽浄土図？―古代オリエント博物館寄託の仏説法図について―」(日本印度学仏教学会)平成 28 年 9 月 3 日

5.“Chinese Characters Devised for the Phonetic Transcription of Sanskrit Mantras and Verses Found in Translations of Tantras from the Northern Song and Liao Dynasties”
(第 3 届中国密教国際学術研討会)2016 年 8 月 21 日

6.「日本におけるチベット密教研究の意義と可能性」(密教研究会学術大会) 平成 28 年 7 月 8 日

7.「密教における心・心所―『秘密集会』聖者流の三顕現について―」(第 7 届国際仏学論壇「心与心所之研究」) [中国語同時通訳つき]2017 年 7 月 22 日

〔図書〕（計６件）

1.田中公明編 ART OF THANGKA Vol.7 (240 頁)Hahn Cultural Foundation[大韓民国](2015 年７月)

2.田中公明編『チベット仏教絵画集成－タンカの芸術－』第 7 巻(240 頁)[1.の日本語版](平成 27 年 7 月頁)臨川書店(平成 27 年 7 月)

3.田中公明著『仏教図像学』(269+5 頁) 春秋社(平成 27 年 8 月)

4.田中公明著『梵蔵対照　安立次第論研究』[日英版](152 頁)渡辺出版(2016 年 8 月)●

5.田中公明著『梵文　普賢成就法註研究』[日英版](156 頁)渡辺出版(2017 年 7 月)●

6.田中公明著『両界曼荼羅の仏たち』(226+索引 16 頁)春秋社(2017 年 9 月)

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.geocities.jp/dkyil_hkhor/

６．研究組織

(1)研究代表者
田中公明（中村元東方研究所専任研究員）
研究者番号：00171744

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)